

起業の成功要因としての起業経験値の意義について

-米国を中心とした起業家別パネルデータによる考察-

高橋 誠二

概要

米国を中心として、事業の方向転換を前提とした、柔軟な起業方法が浸透している。具体的には、起業のコストが低下したことで、ユーザー中心のサービス設計思想を重視して、改善を繰り返す手法が確立している。本稿ではそのような状況下で、複数回の試行錯誤を経た起業経験豊富な起業家は、初めて起業をする者よりも成功しうるという仮説を検証した。

先行研究としては、(1)起業家の能力と成功の関係性を研究したもの(2)起業家の周囲の環境と成功の関係を研究したもの(3)その両方を考慮したものの3通りがある。まず(1)は、Shame (2000)などに詳しい。そこに示されるには、学歴や在職経験が豊富であれば、事業機会に気づきやすくなる。また、Brush (2008)は、管理職以上の経験がある起業家なら、その経験を活かして起業後も業績を上げることができる。次に(2)は、Davidsson (2003)が論じたように、周囲に相談した結果後押しされると、起業の成功に大きく寄与する。最後に(3)については、Gottschalk (2014)がドイツの企業別パネルデータを用いて、同様の仮説を研究している。等研究では、本稿と異なり被説明変数に「企業が存続しているか否か」というダミー変数を用いており、シリアルアントレプレナーとしての経験が企業の存続に寄与しないという結論が出ている。

これらを踏まえて本稿では、海外の企業データベースであるCrunchBaseのデータを元に作成したクロスセクションデータ、および起業家別パネルデータを固定効果モデルで検証した。その際の変数設定の仕方として、起業回数が当該起業家の成功に寄与するかという意義を、その個人の資金調達総額を被説明変数においた。加えて、固定効果モデルにおけるサンプル作成では、全起業家、博士課程修了済み、アドバイザー経験有りの起業家、年度での分割などの仕方、サブサンプルを作成することで、その影響度合いの違いを見た。

その結果、起業家の成功に寄与するのは、分析時に含んだ他の変数である投資家としての経験など、知見を蓄積しているかという要因のほうが大きく寄与し、資金調達総額と起業回数とは、どのモデルを用いても有意な関係が見られないという結果が得られた。さらに、クロスセクションの分析では有意な結果がもたらされたが、時間効果を考慮すると有意な効果を持ち得ないという結果も明らかになった。

以上の総括として、今回の「複数回の試行錯誤を経た起業経験豊富な起業家は、初めて起業をする者よりも成功しうる」という仮説は棄却され、資金調達総額と起業回数が相関を持たなかった理由として、起業する回数が少なくても大きく成功した場合、回数が少なくても資金調達総額が大きくなるような事例が考えられる。あるいは、資金調達するまでもなく何度も失敗してしまうような起業家であり、逆の相関を持ちうる事例も、本稿で仮説が棄却された理由の一つと考えら

れる。今後の研究ではある時点での起業家の業績や投資実績をより詳細に記録する必要があることを示した。

参考文献

- Brush, Candida G., Tatiana S. Manolova, and Linda F. Edelman (2008) "Properties of emerging organizations: An empirical test." *Journal of Business Venturing*, Vol.23, No.5, pp.547-566.
- Davidsson, Per and Honig, Benson (2003) "The role of social and human capital among nascent entrepreneurs", *Journal of Business Venturing* 18(3):pp. 301-331.
- Gompers, Paul A., Josh Lerner, David Scharfstein, and Anna Kovner. "Performance Persistence in Entrepreneurship and Venture Capital." *Journal of Financial Economics* 96, no. 1 (April 2010).
- Gottschalk, Sandra; Greene, Francis J.; Höwer, Daniel; Müller, Bettina, (2014) "If you don't succeed, should you try again? The role of entrepreneurial experience in venture survival", *ZEW Discussion Papers*, No. 14-009
- John L. Thompson, (2004) "The facets of the entrepreneur: identifying entrepreneurial potential", *Management Decision*, Vol. 42 Iss: 2, pp.243 - 258
- Plehn-Dujowich, J. (2010) A theory of serial entrepreneurship. *Small Business Economics* 35 4, pp.377-398.
- Shane, Scott, and Shane Venkataraman (2000) "Note As The Promise of Entrepreneurship" *Academy of Management Review*, Vol.25, No.1, pp.217- 226.
- Shane, Scott (2000) "Prior Knowledge and the Discovery of Entrepreneurial Opportunities", *Organization Science*, Vol.11, No.4, pp.448-469.